



Title	特集：ICT を活用した複言語学習のススメ
Author(s)	大前, 智美
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2022, 23, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/92452
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集：ICT を活用した複言語学習のススメ

大前 智美(大阪大学 サイバーメディアセンター)

言語教育支援研究部門では2019年度より「複言語学習のススメ」という市民講座を開講している。複言語学習は、世界にあるたくさんの言葉や文化にふれ、自分自身でその言葉を口にすることで「知っている」よりもその存在を身近に感じ、興味を持ち、世界を広げるきっかけを作ることを目指している。

2019年度は対面で4回の講座を実施、しかし、2020年度からはCOVID-19のため対面での実施が難しく、Zoomによるオンライン市民講座となった。オンラインになったことで、近隣の市民だけでなく日本全国また海外からの参加者もあるなど、多くの参加者に広く公開し、多くの参加者を受け入れることができた。

本年のサイバーメディアフォーラムの特集は、複言語学習に講師として参加する4名の複言語学習の取り組みとともに自身の語学教育やコンテンツ作成の実践報告を紹介する。

まず、Margaret Kristant 先生は2017年度より大学における複言語学習の取り組みを実施しており、本市民講座でも2019年度からインドネシア語講師として参加いただいている。講座内ではロイロノート・スクールや BookCreator で作成した教材を受講者に提示しながら、普段あまり触れる機会のないインドネシア語を丁寧に指導している。その実践内容を具体的に紹介している。

渡邊ゆきこ先生は沖縄からオンラインで中国語講師として参加してくださっている。渡邊ゆきこ先生はご自身の中国語教育に早くからVRを取り入れ、Mozilla Hubs を活用しており、教育目的に合ったシーンを作成し、会話だけでなく発音や内容理解、プレゼン発表会など様々なタスクを行なっている。その一部をこれからの外国語教育への展望を含め紹介している。

金庚民先生は本学の基礎工学研究科の大学院生で、市民講座や小学校向け複言語学習の取り組みに協力してくれており、「耳で聞いて口で真似する」という、この講座の学習方法を理解し、言語教育が専門ではないにもかかわらず、韓国語教育にもとても力を入れている。市民講座の講師としてだけでなく、Mindstamp を活用し、インタラクティブなハングル文字講座コンテンツの作成を行なっており、その紹介をしている。

岩居弘樹先生は10年前から複言語学習の取り組みを行なっており、本市民講座の主催者である。従来ICTを活用した語学教育を実践しており、その取り組みを複言語学習にも応用し、言葉の学び方を主に示してくれている。言葉の学び方を知ることで、次の新しい言語に出会ったときに大きな抵抗なく受け入れることができるようになる、ということを市民講座でも受講生が実感しており、その実践内容を具体的に紹介している。

本特集は「複言語学習のススメ」に協力してくれている4名の語学教員によるICTを活用した語学教育についての実践をまとめた。これらの実践は市民講座だけでなく通常の外国語教育においても応用できる示唆に富んだ内

容であり、下條真司先生の巻頭言にもあるように、進み始めた教育 DX の動きが逆戻りするのではなく、これからのメディア授業・ブレンデッド教育をより良いものとする助けとなることを期待する。

- ICT Devices and Applications in Online Learning:

Examples Taken from Beginner Indonesian Course----- Margaret Kristanto

- わたしの VR 奮闘記----- 渡邊 ゆきこ
- ポストコロナにおけるオンライン言語学習の在り方----- 金 庚民
- ICT を活用した「複言語学習のすすめ」----- 岩居 弘樹